

平成 27 年 9 月 11 日

各 位

会社名 国際石油開発帝石株式会社
代表者名 代表取締役社長 北村 俊昭
(コード番号 1605 東証第一部)
問合せ先 広報・IR エグゼクティブ・マネージャー 橘高 公久
電話番号 03-5572-0233

オーストラリア イクシス LNG プロジェクト
生産開始スケジュール及び LNG 生産能力増加について

国際石油開発帝石株式会社（以下、当社）は、オーストラリアで操業主体（オペレーター）としてプロジェクトパートナーと共にイクシスLNGプロジェクト（以下、本プロジェクト）の開発作業を進めておりますが、この度、本プロジェクトの生産開始予定を当初の2016年末から2017年第3四半期（2017年7月-9月）に見直し、また、本プロジェクトのLNG生産能力が当初の年産840万トンから年産890万トンへ約6%増加する見込みとなりましたので、お知らせいたします。

当社は、2012年1月に行った本プロジェクトの最終投資決定後、世界各地において開発作業を進め、2015年6月時点での本プロジェクトの開発作業進捗率は約74%に達していますが、この度、今後の建設作業スケジュールを詳細に検証した結果、本プロジェクトからの生産開始スケジュールを上述の通りといたしました。当社は、引き続き安全の確保を最優先に、鋭意開発作業を遂行してまいります。

また、生産開始スケジュールの変更等のために、本プロジェクトの投資額も増加することが見込まれますが、増加率は10%程度にとどまる見込みです。

本プロジェクトのLNG生産能力につきましては、最新の技術的情報に基づく、LNG生産システム全体を対象とした技術検討により、当初計画の年産840万トンから年産890万トンへ約6%増加する見込みとなりました。また、今回のスケジュール見直しでは、生産開始からLNGプラントの安定生産までの期間は当初想定よりも短縮することが見込まれています。

本プロジェクトは、40年という長期にわたって稼働が見込まれる世界的にも大規模なLNGプロジェクトです。本プロジェクトから生産されるLNGのうち、当初計画の年産840万トンのLNGについては既に長期LNG売買契約を締結しており、その約7割が日本に供給される予定です。本プロジェクトの実現により、日本へのエネルギーの長期的な安定供給やエネルギー調達におけるリスク分散において一層貢献すると共に、エネルギー資源大国のひとつであるオーストラリアの社会・経済全体の発展に寄与するものと考えています。

国際石油開発帝石株式会社

INPEX CORPORATION

当社は、今後も、本プロジェクトに関係するプロジェクトパートナー、地域コミュニティの方々、オーストラリア連邦政府、西豪州政府及び北部準州政府などのオーストラリアの関係者やプロジェクト関係者の方々のご理解とご協力を得ながら、本プロジェクトの成功に向けてまい進していく所存です。

なお、本件による当期連結業績への影響は、軽微です。また、本プロジェクトの必要資金は、従来通り、自己資金及び外部借入（プロジェクトファイナンス等）により対応する予定です。

以上

イクシス LNG プロジェクト

イクシスLNGプロジェクトは、当社が操業主体（オペレーター、参加権益比率：62.245%）としてトータル社（同：30%）、台湾中油（CPC、同：2.625%）、東京ガス（同：1.575%）、大阪ガス（同：1.2%）、関西電力（同：1.2%）、中部電力（同：0.735%）及び東邦ガス（同：0.42%）と共に、オーストラリア連邦西豪州沖合に位置するイクシスガス・コンデンセート田より産出される天然ガスを、オーストラリア連邦北部準州のダーウィンに建設する陸上ガス液化プラントにて液化し、年間890万トンのLNG及び年間160万トンのLPGとして生産・出荷すると共に、沖合生産・貯油出荷施設（FPSO）などから日量約10万バレル（ピーク時）のコンデンセートを生産・出荷する計画です。本プロジェクトは、40年という長期にわたって稼働が見込まれる世界的にも大規模なLNGプロジェクトです。当社は、1998年の公開入札により本プロジェクトが位置する鉱区の探鉱権を取得、その後の探鉱・評価作業や基本設計作業などの開発検討作業を経て2012年1月に最終投資決定しました。